

## 誘ういきもの展

阿部 えれに（農学研究科農学専攻）

### 1. 基本構想

世界は「誘い」で満ちている。美味しいご飯、友人との外出、美しい人、それから儲け話、快樂、未知の世界…。「誘い」は時に抗うべきものとされ、危険なイメージが付きものだが、私たち人間が誘われることにはそれぞれ理由がある。それは、人間以外の生き物も同じだ。彼らも、切実な目的を持って何かを誘い、理由があって何かに誘われる。ユニークな「誘い」をする、そして受ける生き物はこの地球上に数えきれないほど存在するため、その中でも特に目を引く「誘い」について、体験コーナーや実物の生体、標本等の資料を交えて紹介したい。自然がもつ魅力に自分自身が誘われつつ、つい何かに誘われてしまう生き物たちに思いを馳せながら、普段自然を身近に感じられない方にも生き物の生存戦略や多様性に関心を持っていただけたら嬉しい。

### 2. 展示シナリオ

説明が横書きのため順路は時計回りとする。「誘い」という言葉がもつ妖艶なイメージに合わせて展示室全体を薄暗くし、安全に歩行できる最低限の光量にとどめ、「音」「光」「匂い」の展示を各部屋に組み込む。来場者は中学生以上で主に成人を想定しているが、普段自然について考える機会の無い人達も置いていかないような、分かりやすい言葉や資料を用いる。具体的目標として、彼らに「自分が実践してみたい・されたくない誘い」を一つでも持って帰ってもらうこととする。

#### ①「誘い」とは？

この企画展で扱う「誘い」についてパネルにて定義・解説する。人間の世界での「誘い」と、生態系の中で起こる生存戦略としての「誘い」を結びつけ、親近感をもってもらうための説明とする。

#### ②「囓し討ち」捕食の為の誘いを集めたゾーン

「捕食」のために誘う生き物の特徴（ライオンは狩りの時に誘わないが、この生き物たちが誘う理由は？等）を解説し、紹介する。次に、疑似餌を持っている種類が多い為、その剥製の観察を促すために、「どの生き物が持つ疑似餌か」というクイズを楽しんでもらう。比較的管理がしやすいウツボカズラの生体展示も行い、実物も見てもらう。最後に、「日かげ漁」をするクロコサギを模した大きなドームが天井に吊ってあり、解説を読んだり剥製を観察する来場者がその陰に実際に入ることにより、「捕食される側」に立ってその迫力を実感してもらうものがある。直径4mとするため、入場するとすぐに目に入るので、そこから「あれはなんだろう」という好奇心を抱かせる。

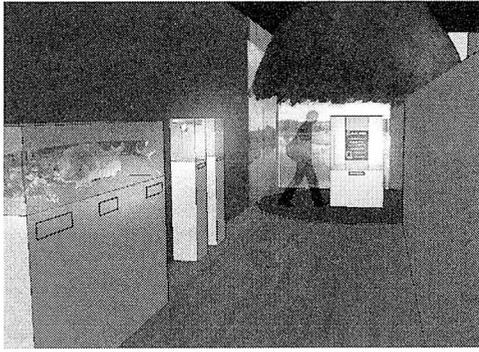


図1 捕食ゾーン

### ③「愛を求めて」求愛・配偶の為の誘いを集めたゾーン

「求愛・配偶」の為に誘う生き物の特徴と、その理由・手段を解説する。基本は剥製や標本を見せるが、行動により求愛をする動物を大きなスクリーンで見ってもらうほか、「音」による誘いを行うシュレーゲルアオガエルとエンマコオロギは生体展示を行い、実際に彼らが発する音を聞いてもらう。日中はあまり鳴かないため、題箋にQRコードを示し、そこからいつでも鳴き声が聞こえるようにする。カワセミは給餌求愛をすることから、カワセミ剥製の前方に彼らがメスにプレゼントとして渡すものの展示も行う。目玉展示はガーターズネークの交尾ボールの標本で、100頭のヘビが玉のようになり交尾を行う様子を見てもらい、「求愛・配偶」の多様性を感じてもらおう。



図2 求愛ゾーン

### ④「助けを求めて」利用の為の誘いを集めたゾーン

植物や小さい生き物が行うことの多い「誘い」であることを解説する。同じパネルにて、「頭上を飛ぶ鳥はどこに向かっていているか考えてみよう」という質問を出し、天井から吊り下げられている小鳥のシルエットに注目させる。それを追いながら展示を見ていくと、ハチに関連する「誘い」（例：ハチの仲間に似た花を持ち、オスのハチをだまして花粉を運ばせるビー・オーキッド）があり、その先に鳥の正体「ミツオシエ」の解説がある。ミツオシエは人に対しても、ハチの巣の場所を教えるために「誘い」を行うため、ここでも人と自然の直接的な結びつきを示して興味を持ってもらう。展示室中央にはキノコに擬態する植物の標本を連ね、最後は死肉の臭いを放ち虫を誘う「ラフレシア」の香り体験ができる机を配置。

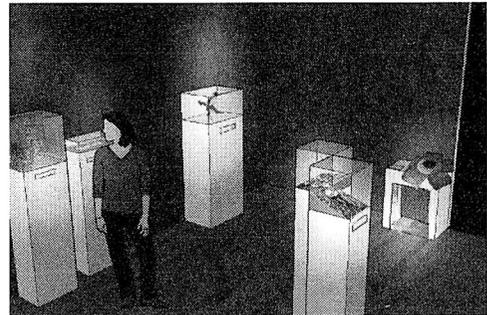


図3 利用ゾーン

### ⑤おわりに・・・あなたと「誘い」について

出口のパネルにて展示解説のまとめを行い、そこで「自分が実践してみたい・されたくない誘い」を考えるよう促して、ここで知った事柄を自分事として家まで持ち帰ってもらうきっかけをつくる。

### 3. 解説パネル・題箋原稿

【A2 パネル 420 × 594mm】

パネル 1

## はじめに

### —「誘う」とは？

『ある行為をするような気分にさせる。うながす。』  
広辞苑で「誘う」を引くと、今回紹介する生き物たちに最もふさわしいこの解説が記載されている。

社会には、このように私たち自身を「誘う」ものが山ほどある。美味しいご飯、儲け話、未知の世界…。

生き物の世界も同様で、彼らの多くは切実な目的を持って何かを誘い、理由があつて何かに誘われることで、様々な環境において独自の生態系（生物とその背景となる無機的環境で成立する、命のつながり）を維持している。

例えば、花はその色や香りによって昆虫を誘い、花粉を運んでもらうことで受粉（人と言う受精）を達成する。それにより植物が繁栄することで、それらを餌とする動物が生きてゆけるのである。このように、一見害悪なイメージを持たれてしまう「誘い」という行為は、自然界を生き抜く生き物たちにとっては「当たり前」の生存戦略なのだ。

具体的に、どんな生き物がどんな方法で「誘い」を行うのか、そしてそれらがどのように生態系に関わっているのか、生き物たちの驚きの一面を知りながら、楽しく考えてゆきたい。

パネル 2

## 騙し討ち

### 捕食のために誘う

動物を食べる生き物にとって「捕食」は、彼らが生きるための最大のミッションと言っても過言ではないだろう。ライオンなどのように、体が大きくパワーにあふれる生き物は、獲物を追いかけて狩りをするので「捕食」する。しかし、自然界にはライオンほど大きくなく、強くないような生き物でも、様々な工夫により「捕食」を可能としている。そうして、動かない植物を食べるよりも効率的に、エネルギーを摂取するのだ。

その術の一つが、「騙し討ち」つまり「誘い」である。

彼らはそれぞれ、巧妙な手口で餌となる生き物をおびき寄せていく。なかでも多く見られるのは、餌となる生き物がさらに餌とするものの真似をして、騙すというものだ。その手口は、「釣り」とよく似ているため、しばしば疑似餌（餌を騙すために発達した体の部位）を、「ルアー」と呼ぶことがある。

もちろんこの方法以外にも、捕食を目的としたユニークな「誘い」は沢山存在する。その一つを、頭上の大きなドームに表した。これはいったい、なんだろう？  
ドームをよく見て、推理に挑戦してみてください。

パネル 3

## 疑似餌クイズ

### どの生き物の疑似餌？

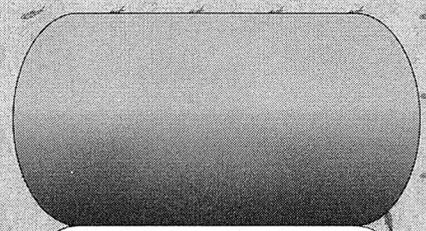


① ② ③

答え  
(めくる)

## 疑似餌クイズ

### どの生き物の疑似餌？



①ボンボリカエルアンコウ  
②ワニガメ  
③ヘビトカゲギス

詳しい解説は  
剥製標本と一緒にご覧ください

## ドームの正体 「〇〇〇漁」をする鳥



今、自分が「川に住む魚」になる想像してみてください。

日の光が差し込む川のなかであなたは、川底の餌をついばんでいる。すると突然、大きな鳥が襲ってきた。捕まれば食べられてしまうので、とにかく逃げ惑う。空からの攻撃をかわせるよう、隠れられる場所を求めて……。

少し泳いだ先に、ちょうどよい日陰があった。それを感知できたあなたは、そこに向かって一直線に逃げ込んだ。けど、あれ？  
こんなところに、日陰なんてあったかな…？

これを読んでいるあなたは、まさに今、頭上にある大きなドームのかけに入っており、先程の魚の状況と重なるのではないだろうか。



これは、水上に翼を広げ、みのでおおうようにして日かげを作り、そこに逃げ込んだ魚を狩る「日かげ漁」のストーリーを体験する展示である。この漁を行うのは「クロコサギ」という鳥で、ペリカン目サギ科コサギ属に分類され、主にアフリカ大陸の湖や湿地帯に生息している。

## 愛を求めて



交配のために誘う

先ほどの「捕食」は、生き物たち自身が生きるために必須な行為であった。これに対し、多くの生き物たちにとって「交配」は、その種（しゅ）が後世に生き残るために最も重要なミッションである。そのために、あるものは命をかけて危険地帯に足を踏み入れ、あるものは激しい戦いの場を強いられる。とはいっても、「種」を残すことが最終的な目的であるため、無駄死にをするような無計画な飛びだし方や、仲間同士の殺し合いをすることは得策ではない。

そこで、フェロモン（生き物が体外に放つ物質）や音で自分の居場所を知らせたり、プレゼントやダンスをすることで物理的攻撃による戦いをせずに交配相手を選ばせるような生き物が進化した。ここで紹介する「誘い」は、人間にとって識別しやすいものもあり、その一部は日常生活に溶け込んでいる。

しかし、この「誘い」が影響するのは、交配の相手だけではない。時に天敵を呼び寄せてしまったり、また別の用途に同じ「誘い」の方法を用いている生き物も存在する。このことを念頭に置いて、展示を観察してほしい。

## 映像で見る「誘い」行動

ここでは、求愛の「誘い」行動をする3種の生き物を映像で見ていく。動物におけるこれらの求愛・威嚇のための行動を、「ディスプレイ」とよぶ。

### 【カワラバト（ドバト）】

分類：ハト目ハト科カワラバト属

我々の生活にも馴染みのある種ではないだろうか。彼らは首を膨らませ、メスを追いかける。私たちの身近なところで、この「誘い」は日常茶飯事なのである。



### 【ズキンアザラシ】

分類：食肉目アザラシ科ズキンアザラシ属

オスの鼻には黒い袋があり、これを膨らませることで求愛を行う。



### 【カタカケフウチョウ】

分類：スズメ目フウチョウ科カタカケフウチョウ目

黒と青の羽をもち、メスの前でそれを開いて、飛び跳ねながら求愛ダンスをする。



## カワセミのプレゼント

鳥類には、オスがメスに対して獲物を与える

### 「求愛給餌」

という行動が見られることがある。

「誘い」としての求愛はもちろん、栄養補給などの役割もあり、これを受けとったメスは、交尾・子育てを行う。

日本に住む鳥類もこれらを行うものが出て、なかでも「川の宝石」と呼ばれるカワセミでよく見られる。そこで渡されるプレゼントの例を紹介する。

(ザリガニ・リス・ウグイ)

### 【カワセミ】

分類：ブッホウソウ目カワセミ科カワセミ属



## 音による求愛



人間は「言葉」により誰かを誘うことが多いが、生き物にも「音」による誘いを行う種が数多く存在する。

基本的に、同種間で居場所を知らせるために用いられることが多い「音」だが、求愛はもちろん、互いの縄張りが重ならないようにしたり、威嚇のために用いる種も存在し、その用途は多種多様である。あなたは、今まで生き物のどんな「音」を聞いたことがあるだろうか。



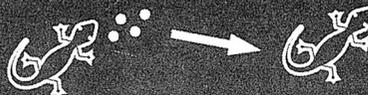
例: ぼくはここにいるよ!  
 (だから、ここにきてね!)  
 or  
 (だから、こっちに来てないでね!)

ここでは、実際に音を発して交尾相手を呼ぶ生き物2種の、生体を展示している。鳴いている彼らを見ることができないときは、題箋に印字されているQRコードを読み取ると、彼らの鳴き声を聞くことができる。

どちらも日本に生息する種であるため、きっとあなたが聞いたことのある音だろう。

## フェロモンによる求愛

フェロモンとは、同種の他の個体から分泌され、それを受容した個体の行動や生理機能に特有の反応を引き起こす化学物質である。



ヒトにもフェロモンがあるとされ現在研究が行われているが、ここでは求愛の際にフェロモンを用いる種を2つ紹介する。

### 【オオサンショウウオ】

日本の特別天然記念物に指定されている両生類で、特徴のある繁殖を行う。オスはテリトリーとして巣穴を持ち、繁殖期にメスをそこへ入れて産卵させるのだが、その際にメスのほうがフェロモンを出すことで、普段は気性の荒いオスを鎮静する。産卵後はその効果が切れるのか、メスは巣穴の外に追い出されてしまう。

### 【オオミノガ】

ミノムシと呼ばれる生き物は、「ミノガ」と呼ばれる蛾のメスである。木などの繊維を用いて作られた「ミノ」の中にいる彼女らは翅や脚を持っておらず、イモムシのような姿であるため外に出て飛ぶことは出来ない。その代わりに、フェロモンを分泌してオスを呼び寄せ、交尾を行う。

## 助けを求めて

利用のために誘う

植物や小さな生き物は、移動能力や体力に限界があり、人間から見ると不自由に見えることがある。しかし、「誘い」によって他の生き物を利用し、時に自身の生存を託す生き物たちがいる。

突然だが、ここで地球の歴史を振り返ってみる。地球が誕生したのは約46億年前であり、生命の誕生は約36億年前という説が有力だ。そこから生き物たちは進化を続け、他の種や環境の影響を受けながら、それらに適した生存戦略を身に着けたものだけが生き残ってきた。他種や環境とうまく適合できずに絶滅したものが多くいる中で、今現在地球上で私たちが目にすることができる全ての生き物は、確実に「生き残った」ものである。そのため、私たちから見て不自由や弱さが目立つ生き物は、私たちの理解が及ばない・目の届かない領域で、驚くべき生き残り方法を編み出していることが珍しくないのだ。

今回紹介するものはその一例であるが、生き物たちが約36億年をかけて培ってきた複雑な生存戦略を、人間の無計画な開発行為や無理解によって短期間で消し去ってしまうことが何を意味するのか、是非とも考えを巡らせながら展示を見ていただきたい。

Q.頭上を飛ぶ鳥はどこに向かっていて？  
 展示を見ながら考えてみよう



## SOSを出す野菜

人間に食べられる植物「野菜」も、元々は野生で他の天敵に食べられながら生きてきた。植物が彼らの餌となることで生態系が維持されるが、植物にとっては自分の子孫を残すことも重要な任務である。そのため、「食べられればなし」ではいけないのだ。

そこで、その中でも特徴ある防衛線を繰り広げる種に注目し、モンシロチョウの幼虫に食べられるキャベツがボディガードをつけて身を守る術を紹介する。

### 【ボディガードを呼ぶ】

- ① 食害を受けたキャベツが、青臭い香りと共に「揮発性テルペノイド」と呼ばれるグループの香りを放出する。
- ② その香りを嗅ぎつけた寄生バチがキャベツに向かう。
- ③ 寄生バチがモンシロチョウ幼虫に卵を産み付ける。
- ④ 寄生バチの幼虫が生まれると、モンシロチョウ幼虫を食べて成長する為、それ以上の食害ができなくなる。

今回は、このストーリーをジオラマで再現した。一見何もしていないような植物が、様々な方法でコミュニケーションをとっているということを実感していただきたい。

パネル 12

# 終わりに・・・

生き物の「誘い」がいかに幅広く、重要なものであるか、実感いただけたらうか。中には恐ろしい目的をもつ誘いや、衝撃的な方法での誘いも見られたが、これらは全て彼らの生きるための方法、つまり「生存戦略」であることを忘れないで欲しい。

そして、今回紹介したもの以外にも、生き物の世界で「誘い」は当たり前に行われており、さらに「誘い」以外の興味深い生存戦略も、数えきれないほど存在する。この展示会を通して少しでも彼らの生存戦略に興味を持っていたら、是非身近な生き物をじっくり観察しながら、どのように生き残ってきたのかを考えてみると面白いかもしれない。

最後に、あなたにとって  
「自分が実践してみたい・されたくない誘い」

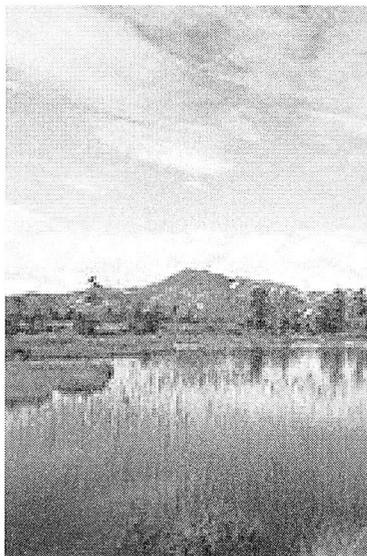
を、思い浮かべてみて欲しい。  
今回の展示にあったように、そこにはその「目的」、そして根元にある自身の「欲求」や「恐怖」の対象が、はっきりと見えて来るはずだ。

ご来場いただき、誠にありがとうございました。  
お氣をつけてお帰りのさい。

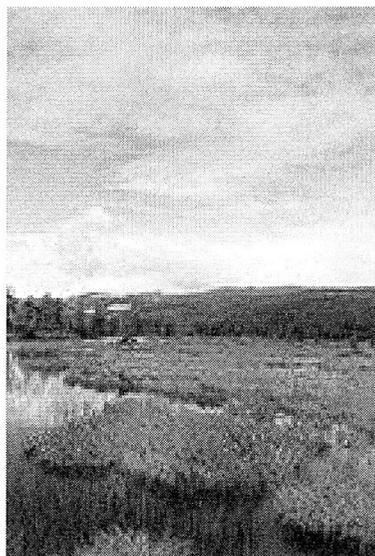


クロコドリ背景写真  
(2000 × 3000mm)

D1



D2



以上パネルの配置

パネル題名 (A2 420 × 594mm)	パネル番号	設置場所
「誘う」とは?	パネル 1	入口すぐ
騙し討ち 捕食のために誘う	パネル 2	捕食ブース
疑似餌クイズ	パネル 3	捕食ブース
ドームの正体「○○○」 漁をする鳥	パネル 4	捕食ブース
愛を求めて 交配のために誘う	パネル 5	配偶ブース
映像で見る「誘い」行動	パネル 6	配偶ブース
カワセミのプレゼント	パネル 7	配偶ブース
音による求愛	パネル 8	配偶ブース
フェロモンによる求愛	パネル 9	配偶ブース
助けを求めて 利用のために誘う	パネル 10	利用ブース
SOSを出す野菜	パネル 11	利用ブース
おわりに	パネル 12	出口前

背景絵 (2500 × 3000mm)	パネル番号	設置場所
日かげ漁の現場 (C 面)	D1	クロコドリ背面
日かげ漁の現場 (B 面)	D2	クロコドリ背面

### スパイダーテイルドクサリヘビ

尻尾の先にある、クモに似た「疑似餌」に寄ってきた小鳥などの獲物を捕食する

学名 : Pseudocerastes urarachnoides  
分類 : 有鱗目ヘビ亜目クサリヘビ科  
体長 : 0.3~2m  
生息地 : イラン, イスラム共和国

### ボンボリカエルアンコウ

頭の先の「エスカ」と呼ばれる疑似餌で、寄ってくる小魚やカエルを捕食する

学名 : Antennarius hispidus  
分類 : アンコウ目カエルアンコウ亜目カエルアンコウ科カエルアンコウ属  
体長 : 15センチ前後  
生息地 : 日本, アジア, インド, 西太平洋域

### ワニガメ

口の中にある、ミミズに似た突起物の付いた舌で小魚などを呼び寄せて捕え、噛み砕いて食べる

学名 : Macrochelys temminckii  
分類 : カメ目カミツキガメ科  
体長 : 甲長最大80cm  
生息地 : 米国南東部

### ヘビトカゲギス

顎の先の光る疑似餌を用いて餌となる深海生物をおびき寄せ、捕食する

学名 : Stomias boa  
分類 : ソコギス目トカゲギス科  
体長 : 40~170cm  
生息地 : 地中海, 東大西洋, 南アフリカ沖, 太平洋, 北大西洋

### ナゲナワグモ

メスの「ガ」が出すフェロモンと似た物質を糸につけて垂らし、寄ってきた「ガ」を糸を振り回して捕獲する

学名 : bolas spider  
分類 : クモ目コガネグモ科ナゲナワグモ属  
体長 : 1~2 cm  
生息地 : 北アメリカ

### ウツボカズラ

蓋の内側にある蜜腺に呼び寄せられた虫等が、滑りやすい襟（えり）から消化液の入った捕虫袋に落ち養分となる

学名 : Nepenthes  
分類 : ナデシコ目ウツボカズラ科ウツボカズラ属  
体長 : 50cm~15m  
生息地 : 東南アジア

### ゲンジボタル

光を発して交配相手を誘い出す。しかし、交配をしない幼虫や蛹も光るため、光の用途や効果は不明な部分も多い。

学名 : Luciola cruciata  
分類 : コウチュウ目カブトムシ亜科ホタル科ゲンジボタル属  
体長 : 15mm前後  
生息地 : 日本

### ガーターズネーク

メスだけでなくオス自身もメスに似た匂いを出して集まり、時に100頭ものオスが1匹のメスに群がる 暖め合いも行う

学名 : Thamnophis sirtalis  
分類 : 有鱗目ユウダ科ガーターヘビ属  
体長 : 46~137cm  
生息地 : カナダ, コスタリカ

### オオサンショウウオ

メスが産卵する際にフェロモンを放出し、それに誘われたオスが卵のうを抱きかかえた後、体外受精させる

学名 : *Andrias japonicus*  
分類 : 有尾目オオサンショウウオ科オオサンショウウオ属  
体長 : 50~70cm(最大150cm)  
生息地 : 日本列島南西部

### ガ類 (オオミノガ)

メスはフェロモンでオスをおびき寄せ、それを感じるためオスの触覚は太く発達している ミノムシもガの一種

学名 : *Eumeta japonica* (Heylaerts)  
分類 : 鱗翅目ミノガ科  
体長 : 老齢幼虫 35~50mm, 成虫 30~35mm  
生息地 : 本州, 四国, 九州, 沖縄

### カエル垂目 (シュレーゲルアオガエル)

鳴囊で音を出しメスを呼ぶが、天敵に見つからないよう自分は鳴かずに別個体が呼んだメスを横取りすることも

学名 : *Rhacophorus schlegelii*  
分類 : 両生綱無尾目アオガエル科  
体長 : 32~53mm  
生息地 : 本州, 四国, 九州



### バッタ目 (エンマコオロギ)

前翅をこすることで鳴き声を出す。メスを呼ぶ時よりオス同士の争いをする時のほうが短く鳴く

学名 : *Teleogryllus emma*  
分類 : バッタ目コオロギ上科コオロギ科  
体長 : 26~32mm  
生息地 : 日本



### ビー・オーキッド

ハチの仲間に似た花を持つことで、交尾のためやってくるオスのハチを騙して誘い、花粉を運ばせる

学名 : *Ophrys apifera*  
分類 : キジカクシ目ラン科オプリス属  
体長 : 15~50cm  
生息地 : 地中海沿岸

### ハナバチの仲間

ビー・オーキッドに騙されてやってくるハチたち。背景の写真は彼らの巣。

学名 : *Anthophila*  
分類 : ハチ目ミツバチ上科  
体長 : 10~15mm  
生息地 : 世界全土

### ミツオシエ (ノドグロミツオシエ)

大型哺乳類や人間に近づき、鳴いてミツバチの巣に誘導した後、巣を壊してもらい幼虫や巣そのものを食べる

学名 : *Indicator indicator*  
分類 : キツキ目ミツオシエ科  
体長 : 20cm  
生息地 : アフリカ(サハラ砂漠以南)



### ハラン

キノコに似る多肉質の花を咲かせ、キノコを食べるキノコバエを呼んで花粉を運ばせる

学名 : *Aspidistra elatior*  
分類 : キジカクシ目キジカクシ科スズラン亜科ハラン属  
体長 : 50cm  
生息地 : 九州南部

### タマノカンアオイ

キノコに似せた花や匂いにより、産卵場所を探すキノコバエを呼び花粉を運ばせる

学名 : *Asarum tamaense*  
 分類 : コショウ目 ウマノスズクサ科カンアオイ属  
 体長 : 5~13cm  
 生息地 : 関東地方南西部

### ラフレシア

花から死肉に似た香りを放ち、寄ってきた虫等に受粉を手伝わせる

学名 : *Rafflesia*  
 分類 : キントラノオ目ラフレシア科  
 体長 : 直径90cm  
 生息地 : 東南アジア, マレー半島

## 4. 展示資料リスト

資料名	解説したいこと	点数	番号	ブース
ジオラマ (岩とヘビ剥製)	スパイダーテイルドクサリヘビの疑似餌	1	A1	捕食
剥製 (アンコウ)	アンコウの疑似餌・クイズ	1	A2	捕食
剥製 (ワニガメ)	ワニガメの疑似餌・クイズ	1	A3	捕食
剥製 (ヘビトカゲギス)	ヘビトカゲギスの疑似餌・クイズ	1	A4	捕食
剥製 (クロコサギ)	クロコサギの翼の利用法	1	A5	捕食
吊下げ黒ドーム	クロコサギの翼の利用法	1	A6	捕食
ジオラマ (ナゲナワグモ標本と糸)	フェロモンと糸を用いた捕食	1	A7	捕食
生体水槽 (ウツボカズラとコバエ)	食虫植物の捕食	1	A8	捕食
標本 (ペアのゲンジホタル)	求愛行動となるものも他用途があること	1	B1	配偶
映像媒体	ドバト・ズキンアザラシ・カタカケフウチョウの求愛	1	B2	配偶
剥製 (ザリガニ)	鳥類の求愛で贈られる物	1	B3	配偶
剥製 (リス)	鳥類の求愛で贈られる物	1	B4	配偶
剥製 (ウグイ)	鳥類の求愛で贈られる物	1	B5	配偶
剥製 (ペアのカワセミ)	鳥類の求愛給餌	1	B6	配偶
ジオラマ (ヘビ交配模型)	ガーターズネークの交尾ボール	1	B7	配偶
剥製 (オオサンショウウオ)	フェロモンを用いた求愛・誘引	1	B8	配偶
標本 (ペアのオオミノガ※ミノムシ)	フェロモンを用いた求愛・誘引	1	B9	配偶
生体水槽 (ペアのシュレーゲルアオカエル)	音による求愛	1	B10	配偶
生体水槽 (エンマコオロギ 4 匹)	音による求愛	1	B11	配偶
剥製 (ミツオシエ)	哺乳類を誘導することによる採食	1	C1	利用
生体水槽 (ビー・オーキッド)	ハチへの擬態による花粉媒介誘導	1	C2	利用
標本 (ハナバチ 5 個体)	ビー・オーキッドとの比較	1	C3	利用
標本 (ハラン)	キノコへの擬態による花粉媒介誘導	1	C4	利用
標本 (タマノカンアオイ)	キノコへの擬態による花粉媒介誘導	1	C5	利用
ジオラマ (キャベツ・モンシロ・コマユバチ模型)	食害による天敵誘引 4つのシーン	1	C6	利用
香り装置 (ラフレシア模型)	ラフレシアの死肉臭による誘引	1	C7	利用

特別展

# 誘う

過酷な自然界で生まれた  
生存戦略

いきもの展

入場  
無料

10/1 ▶ 10/31

明治大学博物館

# 誘

う  
い  
き  
も  
の  
展

## 世界は誘いで満ちている

美味しいご飯、友人との外出、儲け話、未知の世界…  
「誘い」には危険なイメージが付きものだが  
私たち人間が誘われることには、それぞれ理由がある。  
それは、人間以外の生き物も同じだ。

彼らも、切実な目的を持って何かを誘い、誘われる。  
過酷な自然界での生き残りをかけて、ユニークな「誘い」を  
編み出した生き物たちの世界を体験していただきたいー

### 騙し討ち

捕食のために誘う生き物を紹介



### 愛を求めて

求愛・配偶のために誘う生き物を紹介



### 助けを求めて

利用のために誘う生き物を紹介



特別な展示  
ご紹介

#### ●生体展示

一部、本物の生き物が展示されています。  
騙し討ちをする植物と、愛を求めて  
“音”による誘いをする動物を、じっくりご覧ください。

#### ●香り体験

助けを求めて誘う植物の、特別な匂いを体験できます。



会場

明治大学博物館

〒101-8301

東京都千代田区神田駿河台1-1

アカデミーコモン地階

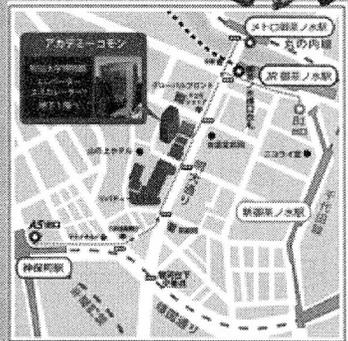
☎03-3296-4448 Fax 03-3296-4365

Mail ●●●@meiji.jp 担当：阿部

#### アクセス

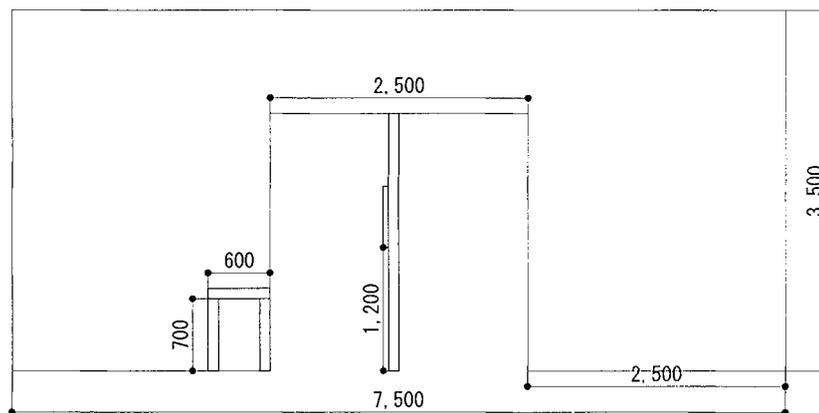
御茶ノ水駅/御茶ノ水橋口 徒歩8分

神保町駅A5出口 徒歩10分

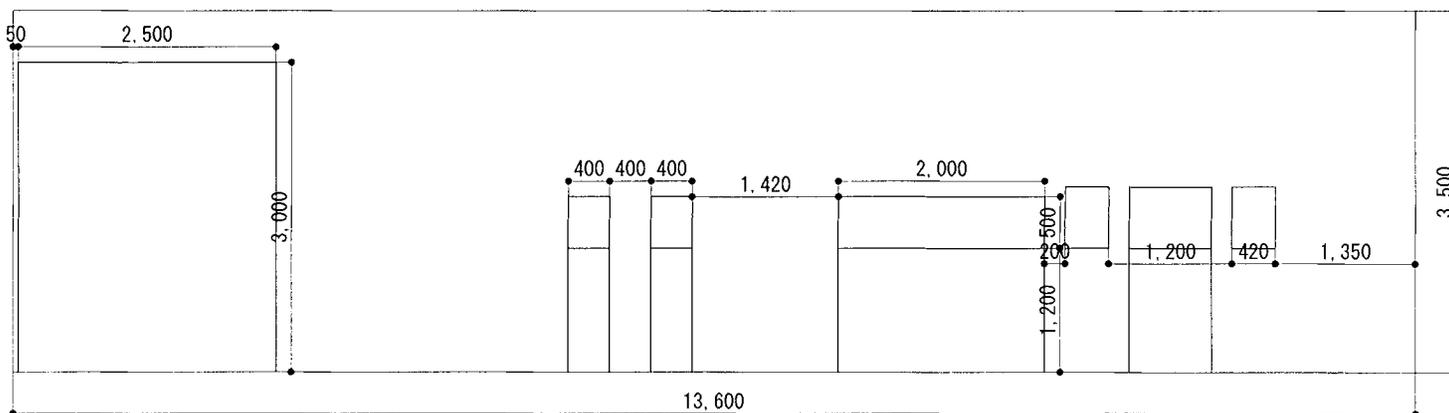




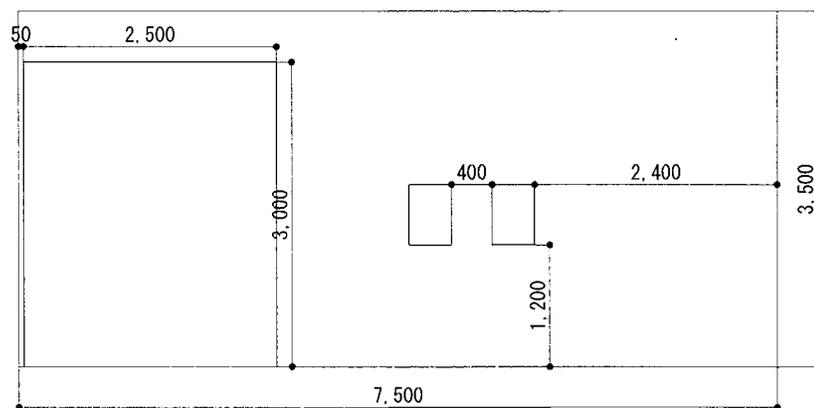
立面图A



立面图B



立面图C



立面图D

